

「ねじロッカー」を設置

トルク 全支店への展開目指す

トルク(株)(大阪市西区)は、6月より同社「大正DC」において引取注文による商品を無人で受け取る「ねじロッカー」を設置した。顧客の利便性向上に繋げていくと共に、営業時間外でも引取が行えるため早朝などこれまで引取に対応していなかった時間帯の需要取り込みも狙う。榎垣俊行社長に設置の狙い今後の計画について話を聞いた。

この度同社が設置した「ねじロッカー」は、主に段ボールサイズの商品を対象としたもの。ロッカーのサイズは2種類あり、小サイズが縦52・8×横42・2×高さ25センチ、大サイズは縦52・8×横49・5×高さ39・3センチとなっている。引取注文が対象で、利用の際は同社から送られてくる開錠用の番号もしくはQRコードを使用することで24時間いつでもロッカーを開けて注文した商品を受け取る事ができる。関係者によれば今後は半期かけて同社全支店へ展開する予定となっている。榎垣社長は「ねじロッカー」について「既製品ではなく当社がメーカーと共同で開発したもので、新サービスを具現化して展開できていることを嬉しく思う。(サービスは本紙5月22日付に関連記事)。



大正DCに「ねじロッカー」を設置した

同社は今年4月27日に行われた同社取締役会においてAI関連事業への投資、経営支援及び提携先の探索を事業内容とする子会社の設立を決めている(本紙既報)。新会社設立の狙いとAIの活

用について、榎垣俊行社長は本紙の取材に対して次のように答えた。榎垣社長「AIは産業界に対して極めて大きな変化をもたらす技術であると理解している。当社としてはこの変化に乗り



遅れないよう備える必要があると考へており、また今後AIが普及していく中で自分達が(AIを)理解していないのでは顧客に何も伝えることができないだろう。この変化を全社員が理解し、当社はAIについて率先的にコミットしていくという姿勢を社内外で発信している。新会社では当社と協力いただける提携先を探すと共に、AIの活用を目指す当社の姿勢について情報を発信する狙いもある。成熟産業である鉄鋼業界での成長を考えた際、AIを数を増やして熾烈なシェア争いを繰り広げるのではなく当社の取引先を支援し、新たな価値を提供するという形でも皆様のお役に立てるのでは。例えば将来当社がAIの導入を支援するといった形でビジネスを拡げていくことができると考えている。(取材日5月9日、聞き手関西支社・後藤)